

地球に愛をこめて

核兵器全廃条約上程に向けての素案 2007年8月

現在、世界には、圧倒的な破壊力を持つ兵器としての核が存在している。これは、果たして人類にとってどんな意味を持つのであろうか？世界各地に存在する核施設（原子力発電所）には厳しい安全基準が設けられていることであろう。しかし、核兵器の保管施設は果たして安全といえるのだろうか？現在世界には2万6千発程の核弾頭が存在すると言われている。最近では柏崎刈羽原子力発電所の事件もある。震災のニュースを聞きながら大変な不安にかられた。

過去、私は、インドが初めて核実験を行ったときに、それに抗議すべく、インドを訪問した。そのとき、非公式ながら当時の国防大臣閣下と後の大統領閣下にお会いし、お話を伺うことが出来た。そのときの対話を通じて判明したことは、インドは核兵器を保有することよりはむしろ、核の力による抑止力を示すことにより、逆に国防費を削減し、その費用でもって貧しい国民を救うことを望んでいたということである。では、だからといって核兵器が人類に幸福をもたらすのであろうか？その当時お会いした、前大統領閣下は核全廃条約が結ばれるならば、インドは真っ先に核兵器の廃絶を行うだろうと約束して下さった。閣下はそもそも核兵器の開発に携わったインドでも有数の科学者であられる。そのお心を量り知ることはできない。

現在存在する核拡散防止条約は、核兵器廃絶に向けてある一定の効力はあるものの、現在の核保有国が非保有国に対して優位な立場を保つことの出来る不平等なものである。これでは残念ながら全ての国家の支持を得ることは大変難しい。では、核全廃を掲げればどうだろうか？これは人類誰もが願う帰結点ではないだろうか？私は試みとして私の周りの人々に「核拡散防止がよいか、それとも核全廃がよいか？」と問いかけてみたが、誰もが核全廃の方が良いと答えてくれた。

人類がそれぞれ一個人として考えたならば核全廃を望んでいるものと、私は信じたい。これは、私たちにとって夢とも祈りとも言える内容であり、実現することを願っている。皆様のお力添えを頂いて実現できるならば、本当に素晴らしい。

そこで、この核兵器全廃条約の批准を目指して、世界的な国民運動を推し進めて行きたいと考えるものである。そして、この核兵器全廃条約を国連に上程する国としては、ご縁を持ったインドか、あるいは世界でただ一つの被爆国である日本こそがふさわしいのではないかと考えている。

また、核兵器を短時間で無害化もしくは無能力化する科学技術の開発が不可欠である。私は、昨年4月、前インド大統領閣下にこの内容について手紙を書いてお渡しすることが出来た。その後に行われた、約30名の日本代表団との謁見の1時間にわたる話の中で、閣下は最新科学技術の研究開発についてお話されていた。

最後に、国家同士が信頼できる関係がなければ、この核の問題を解決することは難しいと思われる。私供はこの運動を、国という枠にとらわれることなく、また宗教、文化をも越えて展開していきたい。

皆様と共に実現してゆきたく願っております。

ライフフォーラムジャパン理事長 阪井 義治

この内容は、はじめ2006年に京都においてWCRPの会合が開かれた際に作成したものです。3月に起きた震災での福島原子力発電所の惨状に、ますます危惧を募らせております。皆様からも賛同とご協力が頂ければ幸いです。